

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成28年度採択）

中間評価（案）（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
28-4	ワンウェイ型カーシェアリングシステムの導入可能性と道路空間の新たな利活用方策についての研究開発	熊本大学大学院 教授 溝上 章志	B

<研究の概要>

再配車を行わないワンウェイ型カーシェアリングシステムの我が国における導入可能性とその効果の検討，ステーション型の場合の最適デポ配置，フリーフロート型とした場合の道路空間の新たな利活用方策などについて調査・研究する。

<中間評価>

海外事例調査やシミュレーションモデル構築等の成果が得られているが、カーシェアリング社会実験の代替である交通流シミュレーションの有効性が必ずしも明確でないことから、指摘事項に留意しながら現行のとおり推進することが妥当であると評価する。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

1. 本研究は、当初計画ではカーシェアリングサービスの社会実験を行うこととしていたが、関係者との調整がつかなかったため研究計画を変更した経緯がある。このため、社会実験に代わる研究内容（交通流シミュレーション実施）が社会実験の代替となることの有効性について具体的な説明が必要である。
2. 将来のカーシェアリング社会実装実験に向けて、必要となるきめ細かな知見のとりまとめを行っていただきたい。
3. 道路空間の新たな利活用方策についての研究はこれまでほぼ行われておらず、来年度、その「方策提案」をすることには無理があるのではないかとと思われる。実現可能な研究計画への修正を検討していただきたい。
4. 完全自動運転シェアカー時代という新たな切り口が入ってきているようだが、その場合様々な条件設定が大きく変化するのではないか。自動運転は今後の課題として、現実に即したとりまとめを行ってはどうか。

※本評価結果は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第34回新道路技術会議において審議したものである。